



特III
171

利殖の手びき 第壹號

時事経済社々長 永山吉次



始



利殖の手びき

致富の近道に就て

産を起すものは株式相場に投資するほど早いものはなし。大正
 の十年二十年は相場界の僅かに半年か一年に相当する。相場は波瀾
 萬丈の好況時代のみに儲かると思ふのは間違ひである。12
 却つて波瀾の少い時の方が安全に儲かるものである。暴落に會し

て、相場は儲からぬものとして止めて了ふのは、折角高い授業料



を出して習つた學問なり技術なりを捨て、用ひないと同じことである、これから危険も少く、安全に儲かる時代に入つたのであるから損失を受けた者はこれによつて恢復し、損せぬ者は更に大いに儲けねばならぬ時となつたのである。

五十圓百圓と暴騰に暴騰を重ねて行つた時は、儲けた事も多かつたに違ひないが、一面から見ると暴騰する毎に危険がそれだけづゝ加重されて行つた様なものである、猫も杓子も買ひさへすれば儲かつた時代の利益は、眞の儲けではない、それこそ空中の餅の様なのである。

つまり萬人が萬人、株式市場に乗り出して、成金は雨後の茸の如く簇出し、市場は正に白熱化した時に、始めて自分も乗り出して行つて、一所になつて浮れ調子で相場をやるのは、素人のやる事であつて、少しく経験を積んだものゝやる事では無いのである、斯の如き際は、儲けた様であつて其實は却て損をして居るものである、其の理由は各自がその胸に手を當て、考へたならばすぐ解ることである、只何事でも多少は損をせねば、亦よい事も教へられないのであるから、多少高い授業料を拂つたと思へば大した事でもないのである、寧ろ之に依つて得た経験の方が、貴重なものでもあり、高

値なものでもある。

この貴重な高値な経験を活用すべき時代は今後にあるので、たゞ一回に数千金数万金を獲得する様な事は出来ないが、其代りに安全に確實に儲けて行く事が出来る。昨今の市場では至つて小幅の騰落を繰返して居るのであるから、熱狂時代に一回で儲けた分を十回亦是は二十回で儲けて行けばよいのである。

十回の中、二三回は失敗しても後の七八回成功すれば、一年間の中には相當に巨額なる富を獲得する事が出来るのである、相場に依つて産を起し、大富豪たらんとする者は、この心掛が頗る必要なる

事である。

そして一たび熱狂時代が来て充分に儲けたなら、其後は餘り慾張らずに、手を引いて遠くから眺めて居つた方がよい。この呼吸さへ知つて居るならば、萬が一にも失敗する様な事は無いのである。「一時に大成金と成らむと欲する勿れ、早く火となるものは早く灰となる徐々に進み行くべし、相場界の一年は事業界の十年又は二十年に相當す」と此金言を忘れずに、本書を参考として好機會を逸せず徐々に、而も健實に成功致富の道を進んで行かれんことを切望いたします。

逸話

男子の快事業は株式相場で株式に勝る殖産法は他にないと世界第一の富豪ロスチャルドは云っている、此の男は裸一貫から飛び出して株式相場の御蔭で今では世界の黄金王と歌はれている男である、また巨萬の富を欲するものは投機市場に行くと叫んだのは一代に六億の富を積んだ彼のカーネギー翁で、彼は身を一職工から起し投機事業にて金儲けして世界の鐵道王と一時は呼ばれた阿米利加の大分限者である、其他歐米で巨人モルガン、砂糖で儲けたハーウマイヤナ、

投機界の天才、シエームスアールキーンや、投機界の大立物となつて居たがシヨンゲーツ、やハリマン、綿花界のセオドルブライス富豪としてのシヨンデイロツクフエラの如き是れ皆相場界の成功者である。

翻て日本に於ては如何にと云ふに現在日本の大富豪は殆ど此の株式相場と云ふ事には非常に綿密に注意して居るのみならず是れ等富豪は株式とか相場に於ては暴大の利益を獲得しつゝあるのである、今は故人となつて居るが此の相場に於て成功せる雨宮翁の轉々した事は相場するにはよくある事で一寸面白いから参考として著者の探

知する其一端を述べて見よう。

彼は山梨縣の田舎で餘り生計裕ならぬ家に生れ中途に商人となり次で相場界に身を投じ初めは慣ざる事なれば利すれば損失し、資産の増減時々刻々に絶えず、相場の大波小波は頻りに抵り恰も水夫が涯なき大海原を一葉の扁舟にて行く如く度々の危険に逢ふたばかりでなく、蹉跌轉覆して、命からしく泳ぎつく程の憂き目に遭ひたれども彼れが堅忍不拔其目的に向へ進んだから相場界の大波小波は彼れが熟練するに従ひよく切りぬけられ其利得する事益々大きく、蹉跌ある毎に次の反動に依り又利得する處益々大きかつたのである。

明治十五年彼の有名な朝鮮事變起るや忽ち當時相場を中心となり居たる銀貨の相場は大暴騰を來たし爲めに彼れの蒙れる損害は當時の金高にて三十萬圓旗鼓堂々隊伍を整へて繰出せし彼れが大軍も此一戰忽ち塵殺に遭ひ、百方手を盡して之を支へむとしたれども敗形既に定まり復た如何ともする事が出来なくなつたので、流石に豪膽の彼れも斯の大打撃にて痛恨絶望遣るに由なく日々の憂悶積つて遂に病床に横たはるに至つたのである、彼れ當時の状態を人に語つて曰

昨日までは六間々口の立派なる建物に住んで居たのが今日では九

尺二間の裏店住居相場で皆損をして片づけてしまつたし家は賣つたから家もなければ借金も何にもない、身體一つきりになつてしまつてお負けに病氣となり血を吐いて居る事になることは實に情けないではないか、と斯くの如きは慘も亦甚だしくて酷と云ふて宜からう。古の勇將は轡の音に夢を破りて蹶起せりと云へり病床にありながら彼れは何にか好い事はないかと思案せしならん、たま／＼友人小野寺某が彼れの病床に訪れて告ぐるに朝鮮事件平ぎ、銀貨の下落著しきを以てするや、彼れ褥を蹴て起てり然れども願れば、自分には一錢の餘裕あるにあらず、さて如何にしたらよからうかと之れ

を夫人に謀るに夫人は筐底を探りて大判二枚を出して曰はるゝには窃に藏して、良人が不時の需用を待て居たこの事で、彼れは狂喜措く能はず、直に之れを以て二萬枚を賣り次で人の止むるをも聽かず何でも構はないからと遂に六萬枚を賣り相場は愈々下落する、又重ねて六萬枚を賣り此上は幾らでも賣れ／＼と云ふて、びし／＼と賣つて僅か四五日の間に十七萬圓の巨利を得たのである。

今身代限りをして一文なしになりごうにも斯うにもならなかつたのが僅か大判二枚で十七萬圓からになつたのは、夫人が僅か大判二枚を香箱の裡に藏して良人の不時の場合に備へたのは之れ戰國時代

の山内一豊の内子の事蹟と相似たる處あるは平素夫人の心掛けは實に偉いものと云はねばなりません、大判二枚を十七萬圓にした彼の豪膽は又敬服する外はない、彼れは相場が安くなれば買い上騰すると賣り土地が安くなれば土地を買ひ高くなるを待ちて賣り銀貨、土地、株券と利益のある方に身代の乗換を行つて利殖をしたのである。其後彼れは國家の經濟と行動を共にして國家に盡くし資産を増大し紳商として名聲噴々たり又相場界の勇將として世人より尊敬せらるゝに至つたのである。

最近日本の富豪連が株式相場に於て年々儲ける處の金は莫大なる

事にては斯くの如く有利なる相場の賣買は如何にし之れを爲すか現在經濟界の中心となり、賣買高も多し株式相場の性質及賣買法の順序を平意簡短に述べて諸君の參考資料たらんとすのです。

株式相場とは何か

彼の人には近頃株で大層金儲をしたとか、此人は相場で大變な損失をしたなどよく世間では謂ふことであるが此株とか相場とか云ふのはさて何の事であらう、夫は誰も知つて居る様であるが、能く聞き直して見るとまあ十人の中で八九人位は全然其内容を知らぬ者であ

るから著者は株式相場即ち俗に稱する株とか相場とか云ふものは何であるか、元來此株式相場と稱するものは彼の株券の賣買をする事
 で東京取引所の株券とか鐘淵紡績の株券とか郵船會社の株券等を其
 時々の時價に依て賣つたり買つたりするに過ぎない、單に賣買をす
 ると云ふ事については實に株式相場の内容は至極簡單な様だが實際
 は株式相場に對して少しく研究の餘地かあらうと思ふのである表面
 から見て彼の人には郵船會社の株券を十枚買つたところが夫れから二ヶ
 月も經過して、大層株券の値段が上騰つたので、夫を賣拂つて大變な
 利益を得たとか、又或人は某會社の紡績株を買つたのに間もなく其

値段が暴落して非常な損失を招いたとかよく世間で云ふ事である要
 するに株式相場とは株券の賣買、即ち或株を安い時に買ふて高値を
 見込み、思ふ通の高値が來たら其時賣拂て利益を獲得するを目的と
 するに外はないのであるが、此の賣買の方法には種々の方法があ
 る。

株券買入の方法

元來此株券を買入る方法には大體二つの道があつて其一は「現物
 買」他の一は定期買であるが、先づ現物買から説明すると現物買は

頂^{ちやう}ご私^{わたくし}共^{とも}が或^{ある}店^{みせ}にて帽^{ぼうし}子^ことか下^げ駄^だとかを^か買^か求^{もと}める時^{とき}の如^{ごと}く代^{だい}金^{きん}を渡^{わた}し株^{かぶ}券^{けん}を受^う取^{けと}る事^{こと}で誰^{たれ}にもすぐ出^で來^きる事^{こと}であるが、此^{この}株^{かぶ}券^{けん}を賣^うる場所^{ばしょ}は大^{だい}都^と會^{かい}の取^{とり}引^{ひき}所^{じよ}近^{きん}邊^{べん}にしかないので帽^{ぼうし}子^こ店^{みせ}や下^げ駄^だ店^{みせ}の如^{ごと}く澤^{たく}山^{さん}はないので多^{おほ}くは取^{とり}引^{ひき}所^{じよ}近^{きん}邊^{べん}に何^{なに}々^く株^{かぶ}式^{しき}仲^{なか}買^{かひ}店^{てん}或^{ある}は何^{なに}々^く現^{げん}物^{ぶつ}仲^{なか}買^{かひ}人^{にん}と金^{きん}看^{かん}板^{ばん}を掛^かけてある希^き望^{ぼう}者^{しや}は此^{この}店^{みせ}へ電^{でん}話^わか葉^は書^{がき}で何^{なに}々^く株^{かぶ}券^{けん}何^{なに}枚^{まい}と注^{ちゆう}文^{もん}するご同^{どう}時^じに仲^{なか}買^{かひ}店^{てん}にて規^き定^{てい}せる證^{しやう}據^{こきん}金^て(手^て付^{つけ}金^{きん})を^お送^くる時^{とき}は直^{ちゆう}ぐ持^{もつ}て來^くるが、其^{その}時^{とき}は書^{かき}替^{かへ}の委^い任^{にん}狀^{じやう}と株^{かぶ}券^{けん}の裏^り面^{めん}の拂^{はら}込^こ濟^みと記^き名^{めい}とを引^{ひき}くらべて間^ま違^{ちがひ}がなければ安^{あん}心^{しん}して買^{かひ}入^いれるがよい、而^{しか}して買^かふたものは其^{その}株^{かぶ}券^{けん}を自^じ分^{ぶん}で會^{くわい}社^{しゃ}へ持^もつて行^いつて名^{めい}儀^ぎを書^{かき}替^{かへ}をするか或^{ある}

は自^じ分^{ぶん}の委^い任^{にん}狀^{じやう}と印^{いん}鑑^{かん}紙^しを附^つけ他人^{たにん}を遣^{つか}すのもよいと思^{おも}ふ。

次^{つぎ}に定^{てい}期^き買^{かひ}と謂^いふのは其^{その}精^{せい}神^{しん}に於^おいて現^{げん}物^{ぶつ}買^{かひ}と少^{すこ}しも變^{かは}らぬが、是^{これ}は現^{げん}物^{ぶつ}買^{かひ}の樣^{やう}に直^たち代^{だい}金^{きん}を全^{ぜん}部^ぶ渡^{わた}して株^{かぶ}券^{けん}を引^{ひき}取^とらずともよいので取^{とり}引^{ひき}所^{じよ}規^き定^{てい}の證^{しやう}據^{こきん}金^て(手^て付^{つけ}金^{きん})を渡^{わた}して限^{げん}月^{げつ}になりて株^{かぶ}券^{けん}を引^{ひき}取^とり、若^もしくは現^{げん}物^{ぶつ}に手^てを付^つけず仲^{なか}買^{かひ}人^{にん}の手^てを經^へて他人^{たにん}に是^{これ}を賣^{ばい}買^くする方^{ほう}法^{ほう}で、世^せ間^{けん}では一^{いっ}般^{ぱん}に是^これをして株^{かぶ}式^{しき}の相^{さう}場^{ばう}と云^いふのであるから、株^{かぶ}式^{しき}相^{さう}場^{ばう}を研^{けん}究^{きゆう}する者^{もの}は、必^{かな}らず定^{てい}期^き賣^{ばい}買^くに全^{ぜん}力^{りよく}を盡^{つく}さぬばならぬのである。

金儲中の大金儲は此定期

賣買に限る (正算取引)

世の中の金儲には種々あるが此株式の定期賣買は最も資金運用の妙を極めたるものである、僅かの資本金が十倍も三十倍にも働かせるから有つて此定期賣買の取引方法は最も進歩した取引方法だと云ふ事に成つて居る、早く申さば手附金のみで商内が出来ると云ふ様に成つて居るからである、假令は壹百圓の資本金があれば株券

の價として五百圓以上二千圓位までの品を活動さす事が出来るので之れ程金を生かして運轉さす方法は外にあるまいと思ふ、故に此株式賣買を確實にやられた方が一時に大慾さへ起さなければ、大に利益を得るので損失を蒙む事は決してないので有る。

要するに此定期賣買は些かの金を以て短期内に倍加する様な手段が出来るとだから随て終始經財界の出来事に注意し機を見る事を善くし油断なく進んで行きましたならば僅かの間に巨萬の財産を造る事が出来意外の効果を收める事が出来るので有るから立身出世と致富榮達を望まると人は篤と御精讀せられまして、運命開拓の資

料とせられんことを御進め致します。

初めて株式の思惑を御建てになるには大々的に建てる事は後にして最も着實に少しづつ御試しなさるが宜敷からうと思ふ。

株の思惑を爲さるには性質として極沈着と明敏と云ふ事は必要な事であつてそれには始終市場に出入して日々高低區々たる變化に氣を揉み居るときは遂に其渦の中に巻き込まれ骨を折つて何もならぬ事になるから、日々高低には餘り氣を揉まず、靜かに成行のあとさきに目を注ぎ居ます方が却て成功し易いと考へる、都會の人より地方人が成功せらるゝ例の多いのは今日迄の經驗に依つて明である

から幸ひ地方に居らるゝ方々は此點をよく々々玩味なされて大局に目を御着けになり決して輕舉に出でざるが宜敷からうと思ひます。

代用品にても相場は容易に出来る

株式相場と株券の買入法とか云ふ事は前述の説明で、大略御了解せられたことで有らうかう、今代用品にて相場が容易に出来る事を説明して見やう。さて茲に或會社に株券十枚の賣物がある、其値段は

一株六十圓と云ふが彼の會社なら事業の成績が上り配當も利廻もよい、將來は甚だ有望で今六十圓と云ふのは實に安い、だから之れを買ふて置くこと、今月末か翌月には必ず七十圓には賣れるだらうから、一株につき十圓の利益を見るので、十株を買ひ置くと都合百圓の金儲が出来るのは實際受合である、然るに今自分の懐中には唯僅かの金しかないが幸い茲に勸業債券十圓券五枚帝國公債五分利附百圓券一枚所持して居るが、之れを仲買店へ證據金代用として預けて拾株買附ける事が出来るのであるから現金がなくとも代用品となるべき債券公債等があれば充分である。

少額資本の現株券賣買法(實物取引)

今此に僅か現金六十圓しか持合せないが前述の一株六十圓の株は確に有望だから、現物にて十枚買ひたいが如何したら宜いかと云ふに、其有合せの六十圓を「手付金」として先方に渡して賣買契約を爲し、殘金五百四十圓は後に株券と引換に必ず翌月下旬迄に支拂ふ事にするのである。

愈々斯様な買契約をして置いた所が翌月中旬になると自分の目算通り其會社の株券は追々と上騰して來たので、此人は獨り悦んで居る

と其時或買手が来て一株七十圓に買ひたいと申込だから、茲が此株の賣り時であると賣り契約を爲し或買手を同道して先に契約した仲買店に行き、十株の代金中前差入れて置た六十圓の手附金を引去た五百四十圓を一寸或る買手より借用し仲買店に渡し現株を受取り直に或買手に現株引換に殘金百六十圓を受取り賣渡すと差引一百圓は全く自分の金儲となるのである。

如何です斯様すれば小資本で相場は容易に出来るので、斯様な具合に或株が將來必ず上ると見込を付けた場合には期限を定め手付金をやつて株券を買契約をなすことは誰にでも夫れは容易に出来る

事で株数は資本金の都合で十枚以上ならば何れの仲買店にても悦んで御引受けする事と思ひます。

少資本の現物賣買者は金

融機關と利用せよ

怎な具合に僅かの手付金で買付けを契約し見込違ひで安くやつた時には如何にするか、勿論少資本で行つた事であるから、其買契約の期限が来た時には是非株券を引取るべき事であるが、少資本の事

であるから引取るべき金はない、斯様な時には一番不馴なものは心配して失敗することが多いのであるから、此の時失敗せぬ様にするには金融機關を利用する外はないのである、銀行又は他の金融部にゆき買付株券を擔保に預け入れて金を借り出し、夫を先方へ支拂ひ以て會社からは利益配當を受けながら株の高くなるのを待ち、少しでも儲る値段が来たならば其時に賣るより外はない、又擔保品を賣拂ふ迄では不足金に對しては日歩を仕拂へばよいのである。

資本の都合が充分出来たならば、他の良法としては、即ち「賣埋」「難平」「乗換」「ドテン」と云ふ四ツの方法を最も巧妙に利用する事

で、左様すれば、例へ見込反對に買った株券が下落しても損をせぬばかりか却て大利益を得る事になるから面白い。

直取引の説明

(特種實物取引)

東京の兜町や大阪の北濱に行つたものは直相場の建つて居るのを見るだらうが是は直取引と云ふので只單に省略して「チキ」と稱するのだ、而して賣買の當日株の受渡しする約定で賣買するのだから、非常に急しい商賣をして居る人や田舎に居る人等の一寸出来ない事で又致さないのが宜敷いのである「チキ」の相場は時々刻々に變

動してゐるから相場専門の人々でなければ實に危険だ、然るに是は其證據金や手数料が安いから田舎出などは直に此デキに引掛り甚だしい失敗をして悲惨な目に遇はされるので最も警戒すべき事である。相場専門者の如く賣買すれば是れ又意外の利得となる事である。

買付、轉賣、賣付、買戻

新規に株を買ふのを「買付」と云ひ高くなつた時に賣るのを「轉賣」又は「賣埋」と云ふが、買付たのは賣埋で決算となり、賣付たのは買埋で決算する事になる、而して買付けたものは値段が高くなると

儲かり安くなると損失を招ぎ、賣付たものは値段が安くなると儲かり高くなると損失をする事となる。

絶対損せぬ鞘取り賣買法

鞘取賣買といふのは資金こそ多くを要するが百發百中、否萬發萬中、損は決して無くて利益許りといふやり方で、此の方法で巨萬の富を作つた人は非常に多い、今その説明をしようと思ふのであるが順序として茲に一つのお話がある。諸君は今何々製造會社の現株を持つてゐる、それを私が現金で買ひたいと申込む。諸君は五十圓

で賣らうといひ、私も五十圓で買はうといふ、相談はうまく出来ま
 した、その後に至つて、私は現金で買ふつもりでゐたが、金の都合
 が悪い、今日では都合が悪いが、今月三十日になると何とか都合が
 出来る、どうか其の株の現物取引を三十日迄待つて下さいと私が申
 込んだら、諸君は何と答へますか、「私は現金で今日即ち五月十五
 日に代金を貰へると思つたから五十圓で賣ると返事をしたのだが今
 月三十日まで待つてとはソリヤひどい、私も金の必要があるからこそ
 賣らうとしたので、金が三十日でなければ貰へぬといふなら私は賣
 る事を止めませうと、必ずかう斷るであらう。其時に私が「イヤ

たゞで今月三十日迄待つてくれといふのぢやない、今日から三十日
 迄の金利だけを五十圓の外に差上げる、即ち今日は十五日だから今
 月三十日迄十五日分だけの金利として一日五錢宛十五日分七十五錢
 即ち五十圓七十五錢で買へませうと云へば始めて諸君は承知して呉
 れるであらう、これが即ち定期取引の當限である、もし私が今月
 の末にも金が出来ない、來月の末まで待つて呉れといへば一ヶ月半
 分の金利二圓二十五錢を増して五十二圓二十五錢にして下さいとい
 ふのだらう、これが定期取引の中限である、もしも尙私が今月の末
 も來月の末も金の都合が出来ない、さらに月の末まで現物取引を待

つてくれと申込んだら、諸君は今日から數へて二ヶ月と十五日分の金利を加へて五十三圓七十五錢にして下さいといふのだらう、これが即ち定期の先物の値段となるのである。前記の金利は百圓に付日歩五錢の割で計算したのだが、若し私が其製造會社の株券にホレ込んで何でも彼でも欲しいといふ場合には、或は金利は此倍も支拂ふ事になるであらう。即ち、三ヶ月後の取引として五十四圓でも五十五圓でも買ふ事になるであらう。定期取引に於いて暴騰の節などは皆人が買ひたいといふので先物を高くと競つて買ふ事になり當限より先限の方が馬鹿に高い値段になる事がある、この場合に

於いて、此の當限と先限との値段の差（即ち鞘といふ）を儲ける方法之れを鞘取り賣買といふ。

新聞の相場欄を御覽なさい、當、中、先と値段が出てゐるでせうが當より中が高く、中より先が高い、これ即ち前に説明した利子の關係で當然の事である、これを順鞘といふ。然るに時々當より中が安いとか、中より先が安いとかいふ事がある、これを逆鞘といふ。なぜ逆鞘が起るかといふに、其の株が甚だしく將來を悲觀された場合で、こんな事は滅多にあるものではない。所が新聞の相場欄にはこの逆鞘が澤山ある、なぜ悲觀されぬ株にもこの逆鞘を生ずるか

いふに、其れは利益配當落の爲めである。今前記の何々製造會社にしても六月三十日に利益配當が會社から株主に金二圓五十錢宛分配されるどせば、其配當金は買ふ約束した私が取る事になるか、賣る約束した會員諸君が受取る事になるか、考へて見て下さい、考へずとも分りませう、勿論株主たる會員諸君に配當されるでせう、その株を七月三十日に取引した私こそいゝ面の皮で、利益配當を受取つて仕舞つた株を買取る事になる、それで次の利益配當を受取るまでは十二月三十日迄半年待つて居なければならぬ事になる、故に七月三十日の取引契約に對しては、六月三十日取引の値段より配當金の

二圓五十錢だけ差引いた値段になるが當然である、即ち

普通の場合は 利益配當が六月にある場合は

當限(五月限) 五十圓四十錢 五十圓四十錢

中限(六月限) 五十一圓三十錢 五十一圓三十錢

先限(七月限) 五十二圓二十錢 四十九圓七十錢 (即ち配當金二圓五十錢を差引いただけ)

右の如くなるのが當然で、此の如き逆鞘は會社其ものが悲觀されたのではなく、唯利落ちになつただけに逆鞘になつたのである。

これで鞘といふ性質もお分りになつたらうし、又現物値段は常に定期當限相場と大概値段が一致する方法も自然とお分りと思ひますか

ら今度はいよいよ靴取賣買の説明をする。

前記の五月限は五十圓四十錢で、七月限は五十二圓二十錢とすれば其差額は一圓八十錢で、これを一圓八十錢の靴があるといふのだ、利益配當落の方でも五月限と七月限とは七十錢の逆靴だが、利益配當を二圓五十錢だけ會社から貰へるから之を計算すれば矢つ張り一圓八十錢の靴がある、即ち $250 - 70 = 180$ といふ計算で。

此の如く、一圓八十錢の靴がある場合に、この靴だけを儲けようとするのが靴取り賣買であるが、それには先づ、當限の五十圓四十錢を買つて先限の五十二圓二十錢に賣ればよいのである、又利益配當

が二圓五十錢六月にある場合には五月限（當限）を五十圓四十錢で買つて七月限（先限）の四十九圓七十錢に賣つても同じ利益が得られる。

然し今日當限を買つて同時に先限で賣り其差額一圓八十錢儲けて明日から知らん顔をしてゐられる譯のものではないから、さう誤解しては困る、それならどうするかといふに、當限（五月限）で買つた株は五月三十日には引取らねばならぬし、先限（七月限）に賣つたものは七月三十日に現株を引渡さねばならぬ、それだけの手数をして始めて一圓八十錢の靴が儲かるのだ。

それで前にも云つた通り定期取引は最少の株数が十株に制限されて
 ゐるから、先づ十株の鞘取として考へて見ませうが、當限(五月限)
 で十株買ったのだから五月三十日には十株分五百〇四圓を支拂つて
 株券を引取り置き、先限(七月限)で賣つて置くのだから五月の三
 十日に引取つて置いた株券を渡し、五百二十二圓を受取るのである
 かくの如くにして其差十八圓を利する事が出来るのである、だがお
 待ちなさい、これはホンの概算であつて、此外に前號に説いた賣買
 の手数料が取られる、買付て置いて賣埋める場合には手数料は一回
 分でよいが、鞘取の場合には買付たのは現株を引取つて結着をつけ

賣付けたのは現株を渡して終結するので、手数料は一回分では濟ま
 ない、即ち二回分取られるこれを入れてさて精算して見ると、

賣付(七月限)十株代金 522円
 買付(五月限)十株代金 504

差引 精算 18

五月三十日に十株の代金を支拂つて現物を引取る、其に
 は其株金の外に手数料も取られるので其計算は、

(取引代金) 十株分 504.00
 (手数料) 十株分 2.60
 (合計支拂金) 506.60

それから又七月三十日に株券を渡して代金を受取るが其の内から手
 数料だけ差引かれるから其の計算は、

(渡株代金)	十株分	522.00
(手数料)	十株分	—) 2.60
(差引受取金)		519.40

此鞘取賣買の利益はツマリ五月三十日に 506円60銭 拂つて置いて七月三十日に 519円40銭 受取る事になる、差引六十日間に 12円80銭 だけ儲かつた事になる。

この十二圓八十銭の利益は始めに出資した 506円60銭 に對して如何程の利廻りになるかといふに

$$12.80 \div (506.60 \times 60) = 0.0377 \text{ 餘}$$

即ち日歩三銭七厘七毛に當り之を更に年利に換算すると 0.0377

360 = 1.3572 即ち一割三分となる。

若しも又例の利益配當落の逆鞘の場合でも現株を引取つて持つてゐるから恰度六月三十日は株主になつてゐるので會社からは二圓五十銭の分配が来る、故に其の利益配當金を加へると利益の計算は順鞘の場合と同じ事になるのであります。

尤も右は七月限で鞘取をやめて仕舞ふ計算ではあるが、七月末になつて又先限との鞘が多い場合には七月限を買埋めて。九月限を買付けて置く、これ鞘取賣買の乗換の方法で、かうして置けば更に二ヶ月間の鞘が取れて、手数料が一回分だけ取られないで済む事になつて大に利益である。

東同東同上同同東東東東日明同日同東
 洋京毛第洋洋洋京本治本京
 捕モモ二モ毛製鋼鋼製皮製
 鯨新ス新ス新ス織鐵材管革新革新綱

五六〇五〇五七〇六三三三五四九四六
円

關同化化同日同電同室大明日同日同日同
 東學學本氣素日治本魯
 酸工肥べ化肥人漁漁
 新新業新新イ新學新料造業新業新業新

五二三四三五三五八五三二三五三

四七

第
三
部

同旭同日同久同淺日愛品星同ラ
 石本原野本知川製サ
 油石鑛セセセ白島
 新株新油新業新メメメ練藥新燐

四六五〇四五五六五五三三五

東橫南同臺同明帝新同東同臺同鹽同大
 京濱滿南治國高洋灣水日
 米取製製製製製製製製製製
 商引糖新糖新糖糖糖糖糖糖糖

二八三二三四六三六三六三六五六六〇

石橫同南	第 二 部	同東同大大同名同堂同
川濱滿鐵		京阪連古島
島船新道		株株取株米
船渠新道		新式新式引新式新穀新

五五四八円 一一一一 一一一一 一一一一 一一一一

同三大同入同磐九同同北同新同函同浦	第 三 部	菱日山城州海瀉館賀
鑛炭採炭炭優炭鐵船船		新業鑛新炭新鑛鑛新先鑛新工新渠新渠

四六三三五三五三五五五五五五五五三五三五

四六

鬼朝同京同字函九同名同同同同東廣北
怒鮮城治館州古第第第第京島海
水瓦電川水電電燈新燈新新新新燈斯
電斯新氣新電電燈新燈新新新新燈斯

六四四六三六六六四六五五五六六四三

臺新同郡北同信同東楫同九同同富猪同
灣只山海濃信斐州第第士苗
電見電電電電川水二一水代
力川新氣燈新氣新氣電新電新電新

五三四五四四六六六四六三三四六三

同富同日同瓦同東同古同同關帝矢同早
士本斯京第河第第西國作川
製活電電二電二一電電水電
新紙新動新工新氣新工新新氣燈力新力

五六三六二二三〇四八五五六五三五

四九

同橫同京小同朝播富小常南博成第同東
濱濱田鮮州士倉總海多田武
電電原中鐵身鐵鐵鐵灣鐵二鐵
新鐵新鐵電新央道延道道道鐵道新新道

六六三六六四六四六三三八六二三四六

正同內同東同京同王同伊同名同阪同京
金國京成子那古神阪
銀通灣電電電屋急電
行新運新汽新軌新軌新鐵新電新行新鐵

六八八四六四六六六三五四九四四三六

名同東同秋籍同東同東帝共橫東同東日
古京田根洋京國同濱京京本
瓦瓦木土拓建火火火火信興
斯新斯新材地新殖新物災災災災新託銀

四四四三六五三六四六三三四四三六六

四八

現物賣買手数料表

現物買賣出來た時には客が現物仲買店に支拂ふ可きもので之れが現物仲買店の報酬で取引所手数料を含まれて居るのだ。

壹株價格(『東京取引所規定』大正十年一月)

二五〇圓未満	一〇〇	二五〇同	二五〇
五〇〇同	一二〇	三〇〇同	三〇〇
一〇〇〇同	一四〇	三五〇同	三五〇
一五〇〇同	一七〇	四〇〇同	四〇〇

二〇〇同 二〇〇 以上五〇圓又は其(五〇を増)の端數を増す毎

◎直取引

種別	委託手数料
國債證券	(額面百圓ニ付) 十錢
地方債	(同 百圓ニ付) 二十錢
社債	(同 百圓ニ付) 廿五錢
外債、外國國債券	(同 百圓ニ付) 廿五錢

委任狀の書き方

五四

貳錢
印紙

委任狀

一 拙者ノ名義ヲ以テ

ヲ部理代人ト

相定メ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

一 候ニ付名義書替其他之ニ關スル一切ノ件
右委任狀仍而如件

大正 年 月 日

何

某

注文の仕方

一、何々株方 何月限(當、中、先)「現株」

何 十 株 成行買付(賣付)

右御買付(賣付)相成度候

年 月 日

何縣何郡何町何番地

何 の 某

其他前場(後場)寄付、引値、賣埋、買戻、轉賣、トデン、難平、
利乗、出合用ひ又は指値何圓迄何日迄用ゆとかは注文に際して必ず
明瞭に記入するを要す。

五五

仲買人の選定

定期、現物仲買店の選定は買入するもの、最も大切なることにて
 少しでもゆるかせに出来ないことである。仲買店の資産は時々刻々
 變動することなれば諸君は公平に見て善良なる仲買人を選定するが
 良いと思ひます。けれども諸君の望みに依り当社で御紹介も致しま
 す。

○追而利殖の手ひきは順次號數を重ねますから御精讀せられん事を
 御願致します。

當社の電通部を利用せら

れよ

今後の株式界は、如何に推移すべきか、此間に處して克く富を作
 らんとする者は、細心にして微妙なる進退駈引を要す、苟も雪辱戰
 を試みんと欲するもの、若くは新に出陣せんとする者は、此際速か
 に本社通信部を利用せらるゝがよいと思ひます。

本社通信部の最も誇とする處は、初心の人又は素人のみに非ずし

て千軍萬馬の間を馳驅したる充分経験を積める人、黒人とも云はるゝ人の賣買指導を爲し、又實際駆引上の指針たらんとするもので、その通信の如何に權威あるかは指導賣買紙上に現はるゝ成績を見られたら明瞭であります。

回時事經濟社電通部規定は御申込次第無代送付致します。

九十九圓九十八錢	三千二百九十二圓七錢	九千五百三十九圓三十二錢
三圓九十八錢	三千七百八十五圓八十八錢	一萬一千四百四十七圓二十二錢
二十二圓四十六錢	四千三百五十三圓七十六錢	一萬三千七百三十六圓六十六錢
八十八圓三十六錢	五千六百四十一圓二錢	一萬六千四百八十三圓六十六錢
七十四圓九十六錢	五千七百五十七圓八十四錢	一萬九千七百八十四圓七十九錢
九十五圓九十六錢	六千六百二十一圓五十二錢	二萬三千七百三十六圓九十五錢
五十五圓四十八錢	七千六百四十四圓七十五錢	二萬八千四百八十四圓三十四錢
日五十八圓十四錢	八千七百五十六圓九十六錢	三萬四千八百八十一圓二十一錢
百九圓十二錢	一萬七千五百五十二圓	四萬一千九十七圓四十五錢
日十四圓二十一錢	一萬一千五百八十二圓〇八錢	四萬九千二百二十圓九十四錢
七十九圓九十二錢	一萬三千三百八十八圓二十四錢	五萬九千〇六十五圓十三錢
日十三圓五十一錢	一萬五千三百五十五圓九十八錢	七萬八千七百七十八圓十五錢
日二十三圓十三錢	一萬七千六百三十三圓三十八錢	八萬五千五百三十三圓七十九錢

利 廻 累 進 利 殖 表

年	五 分	六 分	七 分	八 分	九 分
一十八年	百〇〇五圓	百〇〇六圓	百〇〇七圓	百〇〇八圓	百〇〇九圓
二十八年	百十圓二十五錢	百十二圓三十六錢	百十四圓四十九錢	百十六圓六十六錢	百十八圓
三十八年	百十五圓七十六錢	百十九圓十錢	百二十二圓五十錢	百二十五圓九十七錢	百二十九圓
四十八年	百二十一圓五十五錢	百二十六圓二十五錢	百三十一圓〇八錢	百三十六圓〇五錢	百四十一圓
五十八年	百二十七圓六十三錢	百三十三圓八十二錢	百四十圓二十六錢	百四十六圓九十三錢	百五十三圓
六十八年	百三十四圓〇一錢	百四十二圓八十五錢	百五十圓〇七錢	百五十八圓六十九錢	百六十七圓
七十八年	百四十四圓七十一錢	百五十四圓三十六錢	百六十圓五十八錢	百七十一圓三十八錢	百八十二圓
八十八年	百四十七圓七十五錢	百五十九圓三十八錢	百七十一圓八十二錢	百八十五圓〇九錢	百九十九圓
九十八年	百五十五圓十三錢	百六十八圓九十五錢	百八十三圓八十五錢	百九十九圓九錢	二百十七圓
十一年	百六十二圓八十九錢	百七十九圓〇八錢	百九十六圓七十二錢	二百十五圓八十七錢	二百三十六圓
十二年	百七十一圓〇三錢	百八十九圓八十三錢	二百一十圓四十九錢	二百三十三圓十六錢	二百五十五圓
十三年	百七十九圓五十九錢	二百〇一圓二十二錢	二百二十五圓二十二錢	二百五十一圓八十二錢	二百八十一圓
十四年	百八十八圓五十六錢	二百十三圓二十九錢	二百四十圓九十八錢	二百七十一圓九十六錢	三百〇六圓
十五年	百九十七圓九十九錢	二百二十六圓〇九錢	二百五十七圓八十五錢	二百九十三圓七十二錢	三百三十四圓
十六年	二百〇七圓八十九錢	二百三十九圓六十六錢	二百七十五圓九十錢	三百十七圓二十二錢	三百六十四圓
十七年	二百一十八圓二十九錢	二百五十四圓〇四錢	二百九十五圓二十二錢	三百四十二圓五十九錢	三百九十九圓
十八年	二百二十九圓二十錢	二百六十九圓二十八錢	三百十五圓八十八錢	三百七十七圓	四百三十二圓
十九年	二百四十圓六十六錢	二百八十五圓四十三錢	三百三十七圓九十九錢	三百九十九圓六十錢	四百七十一圓
二十年	二百五十二圓七十錢	三百〇二圓五十六錢	三百六十一圓六十五錢	四百三十一圓五十七錢	五百十四圓
廿一年	二百六十五圓三十三錢	三百二十圓七十一錢	三百八十六圓九十七錢	四百六十六圓十錢	五百六十四圓
廿二年	二百七十八圓六十錢	三百三十九圓九十六錢	四百二十四圓〇六錢	五百〇三圓三十八錢	六百十圓
廿三年	二百九十二圓五十三錢	三百六十一圓九十七錢	四百四十三圓〇三錢	五百四十三圓六十五錢	六百六十五圓
廿四年	三百〇七圓十五錢	三百八十一圓九十七錢	四百七十四圓〇五錢	五百八十七圓十五錢	七百二十五圓
廿五年	三百二十二圓五十一錢	四百〇四圓八十九錢	五百〇七圓二十四錢	六百三十四圓十二錢	七百九十九圓
廿六年	三百三十八圓六十錢	四百二十九圓十九錢	五百四十二圓七十四錢	六百八十四圓八十五錢	八百六十二圓
廿七年	三百五十五圓五十七錢	四百五十四圓九十四錢	五百八十八圓七十四錢	七百三十九圓六十四錢	九百三十九圓
廿八年	三百七十三圓三十五錢	四百八十二圓二十三錢	六百二十一圓三十九錢	七百九十八圓八十一錢	千二十四圓
廿九年	三百九十二圓〇一錢	五百一十一圓十七錢	六百六十四圓八十八錢	八百六十二圓七十一錢	千百十六圓
三十年	四百一十一圓六十一錢	五百四十一圓八十四錢	七百一十一圓四十三錢	九百三十一圓七十三錢	千二百十七圓
卅一年	四百三十二圓十九錢	五百七十四圓三十五錢	七百六十一圓二十三錢	千〇六十六圓二十七錢	千三百二十圓
卅二年	四百五十三圓八十九錢	六百〇八圓八十一錢	八百一十四圓五十一錢	千八十六圓七十七錢	千四百四十四圓
卅三年	四百七十六圓四十九錢	六百四十五圓三十四錢	八百七十一圓五十三錢	千七十三圓七十一錢	千五百七十七圓
卅四年	五百〇三圓三十一錢	六百八十四圓〇六錢	九百三十二圓五十三錢	千二百六十七圓六十錢	千七百七十圓
卅五年	五百二十五圓三十三錢	七百二十二圓十錢	九百九十七圓八十一錢	千三百六十九圓〇一錢	千八百七十七圓
卅六年	五百五十一圓六十錢	七百六十八圓六十一錢	千〇六十七圓六十六錢	千四百七十八圓五十三錢	二千二十四圓
卅七年	五百七十九圓十八錢	八百十四圓七十三錢	千一百二十二圓三十六錢	千五百九十六圓八十三錢	二千二百三十二圓
卅八年	六百〇八圓十四錢	八百六十三圓六十一錢	千三百〇七圓九十三錢	千八百六十二圓五十三錢	二千四百五十二圓
卅九年	六百三十八圓五十五錢	九百十五圓四十三錢	千三百九十九圓四十八錢	千八百六十二圓五十三錢	二千六百五十二圓
四十年	六百七十圓四十八錢	九百七十七圓三十五錢	千三百九十九圓四十八錢	二千〇一十一圓五十三錢	二千八百五十二圓
四十一年	七百〇四圓	千〇二十八圓五十七錢	千四百九十七圓四十五錢	二千〇七十七圓四十五錢	三千〇四十四圓
四十二年	七百三十九圓二十錢	千九十九圓二十九錢	千六百〇二圓二十七錢	二千三百四十六圓三十五錢	三千四百五十二圓
四十三年	七百七十六圓十六錢	千五百五十五圓七十錢	千七百十四圓四十三錢	二千五百三十三圓九十五錢	三千七百五十二圓
四十四年	八百一十四圓九十七錢	千二百二十五圓〇五錢	千八百三十四圓四十四錢	二千七百三十六圓六十六錢	四千〇六十七圓
四十五年	八百五十五圓七十錢	千二百九十八圓三十五錢	千九百六十二圓八十五錢	二千九百五十五圓六十錢	四千四百五十二圓
四十六年	八百九十八圓五十錢	千三百七十六圓四十錢	二千二百〇四圓二十五錢	三千九百九十二圓〇四錢	四千八百五十二圓
四十七年	九百四十三圓四十三錢	千四百六十九圓〇五錢	二千二百四十七圓三十六錢	三千四百四十七圓四十二錢	五千二百五十二圓
四十八年	九百九十圓六十錢	千五百四十六圓五十九錢	二千四百〇四圓五十七錢	三千七百二十三圓三十錢	五千七百五十二圓
四十九年	千四十四圓十三錢	千六百三十九圓三十九錢	二千五百七十七圓八十九錢	四千〇二十一圓〇六錢	六千二百五十二圓
五十年	千九十二圓十三錢	千七百三十九圓七十五錢	二千七百五十二圓九十九錢	四千三百三十二圓七十四錢	六千八百五十二圓
	千四百四十六圓七十四錢	千八百四十二圓〇二錢	二千九百四十五圓七十錢	四千六百九十圓十六錢	七千四百五十二圓

利 廻 累 進 利 殖 表

分 六 分 七 分 八 分 九 分

五錢	百十二圓三十六錢	百十四圓四十九錢	百十六圓六十六錢	百十八圓八十一錢
十六錢	百十九圓十錢	百二十二圓五十錢	百二十五圓九十七錢	百二十九圓五十一錢
十五錢	百二十六圓二十五錢	百三十一圓〇八錢	百三十六圓〇五錢	百四十一圓十六錢
十三錢	百三十三圓八十二錢	百四十圓二十六錢	百四十六圓九十三錢	百五十三圓八十六錢
〇一錢	百四十一圓八十五錢	百五十圓〇七錢	百五十八圓六十九錢	百六十七圓七十一錢
十一錢	百五十圓三十六錢	百六十圓五十八錢	百七十一圓三十八錢	百八十二圓八十錢
十五錢	百五十九圓三十八錢	百七十一圓八十二錢	百八十五圓〇九錢	百九十九圓二十六錢
十三錢	百六十八圓九十五錢	百八十三圓八十五錢	百九十九圓九十二錢	二百十七圓十九錢
十九錢	百七十九圓〇八錢	百九十六圓七十二錢	二百十五圓八十七錢	二百三十六圓七十四錢
〇三錢	百八十九圓八十三錢	二百一十圓四十九錢	二百三十三圓十六錢	二百五十八圓〇四錢
十九錢	二百〇一圓二十二錢	二百二十五圓二十二錢	二百五十一圓八十二錢	二百八十一圓二十七錢
十六錢	二百十三圓二十九錢	二百四十四圓九十八錢	二百七十一圓九十六錢	三百〇六圓五十八錢
十九錢	二百二十六圓〇九錢	二百五十七圓八十五錢	二百九十三圓七十二錢	三百三十四圓十七錢
十九錢	二百三十九圓六十六錢	二百七十五圓九十錢	三百十七圓二十二錢	三百六十四圓二十五錢
二十九錢	二百五十四圓〇四錢	二百九十五圓二十二錢	三百四十二圓五十九錢	三百九十七圓〇三錢
二十錢	二百六十九圓二十八錢	三百十五圓八十八錢	三百七十七圓	四百三十二圓七十六錢
十六錢	二百八十五圓四十三錢	三百三十七圓九十九錢	三百九十九圓六十錢	四百七十一圓七十一錢
七十錢	三百〇二圓五十六錢	三百六十一圓六十五錢	四百三十一圓五十七錢	五百十四圓十七錢
三十錢	三百二十圓七十一錢	三百八十六圓九十七錢	四百六十六圓十錢	五百六十圓四十四錢
六十錢	三百三十九圓九十六錢	四百二十四圓〇六錢	五百〇三圓三十八錢	六百十圓八十八錢
五十三錢	三百六十四圓三十五錢	四百四十三圓〇三錢	五百四十三圓六十五錢	六百六十五圓八十六錢
十五錢	三百八十一圓九十七錢	四百七十四圓〇五錢	五百八十七圓十五錢	七百二十五圓七十九錢
五十一錢	四百〇四圓八十九錢	五百〇七圓二十四錢	六百三十四圓十二錢	七百九十一圓十一錢
六十錢	四百二十九圓十九錢	五百四十二圓七十四錢	六百八十四圓八十五錢	八百六十二圓三十一錢
五十七錢	四百五十四圓九十四錢	五百八十八圓七十四錢	七百三十九圓六十四錢	九百三十九圓九十二錢
三十五錢	四百八十二圓二十三錢	六百二十一圓三十九錢	七百九十八圓八十一錢	千二十四圓五十一錢
〇一錢	五百一十一圓十七錢	六百六十四圓八十八錢	八百六十二圓七十一錢	千百十六圓七十一錢
六十一錢	五百四十一圓八十四錢	七百一十一圓四十三錢	九百三十一圓七十三錢	千二百十七圓二十二錢
十九錢	五百七十四圓三十五錢	七百六十一圓二十三錢	千〇六圓二十七錢	千三百二十六圓七十七錢
八十錢	六百〇八圓八十一錢	八百一十四圓五十一錢	千八十六圓七十七錢	千四百四十六圓八十八錢
十九錢	六百四十五圓三十四錢	八百七十一圓五十三錢	千七十三圓七十一錢	千五百七十六圓三十三錢
十二錢	六百八十四圓〇六錢	九百三十二圓五十三錢	千二百六十七圓六十錢	千七百十八圓二十錢
三十三錢	七百二十二圓五圓十錢	九百九十七圓八十一錢	千三百六十九圓〇一錢	千八百七十二圓八十四錢
六十錢	七百六十八圓六十一錢	千〇六十七圓六十六錢	千四百七十八圓五十三錢	二千四十一圓四十錢
十八錢	八百十四圓七十三錢	千一百四十二圓三十九錢	千五百九十六圓八十三錢	二千二百三十五圓十二錢
十四錢	八百六十三圓六十一錢	千二百二十二圓三十六錢	千七百二十四圓五十六錢	二千四百三十五圓三十八錢
五十五錢	九百十五圓四十三錢	千三百〇七圓九十三錢	千八百六十二圓五十三錢	二千六百四十三圓六十七錢
四十八錢	九百七十圓三十五錢	千三百九十九圓四十八錢	二千〇一十一圓五十三錢	二千八百八十一圓六十錢
四圓	千〇二十八圓五十七錢	千四百九十七圓四十五錢	二千一百七十二圓四十五錢	三千四百四十四圓九十四錢
二十錢	千九十四圓二十九錢	千六百〇二圓二十七錢	二千三百四十六圓二十五錢	三千四百三十三圓六十五錢
十六錢	千五百五十五圓七十錢	千七百十四圓四十三錢	二千五百三十三圓九十五錢	三千七百三十一圓七十五錢
九十七錢	千二百二十五圓〇五錢	千八百三十四圓四十四錢	二千七百三十六圓六十六錢	四千六十七圓六十一錢
七十錢	千二百九十八圓三十五錢	千九百六十二圓八十五錢	二千九百五十五圓六十錢	四千四百三十三圓七十錢
五十錢	千三百七十六圓四十四錢	二千〇百圓二十五錢	三千百九十二圓〇四錢	四千八百三十三圓七十三錢
四十三錢	千四百六十九圓〇五錢	二千二百四十七圓三十六錢	三千四百四十七圓四十一錢	五千二百六十七圓六十六錢
六十錢	千五百四十六圓五十九錢	二千四百〇四圓五十七錢	三千七百二十三圓三十錢	五千七百四十一圓七十六錢
十三錢	千六百三十九圓三十九錢	二千五百七十三圓八十九錢	四千〇二十一圓〇六錢	六千二百五十八圓五十二錢
十三錢	千七百三十九圓七十五錢	二千七百五十二圓九十九錢	四千三百三十二圓七十四錢	六千八百二十一圓七十九錢
七十四錢	千八百四十二圓〇二錢	二千九百四十五圓七十錢	四千六百九十四圓十六錢	七千四百三十五圓七十五錢

百〇八圓〇六錢
 百〇五圓三錢
 一十一圓六十三錢
 八百七十二圓三十三錢
 〇七十二圓九十錢
 八百四十一圓六十五錢
 二百九十八圓六十五錢
 二百六十六圓四十九錢
 〇七十圓四十七錢
 二十八圓九十三錢
 六百〇三圓六十錢
 千九百圓三錢

二萬三千二百九十三圓七十錢
 二萬六千七百八十七圓七十六錢
 三萬八千五百九十二圓
 三萬五千四百三十六圓八十二錢
 四萬七千四百八十三圓
 四萬六千八百五十一圓九十五錢
 五萬三千八百七十九圓七十四錢
 六萬二千二百六十一圓七十錢
 七萬一千二百五十五圓九十六錢
 八萬九千九百四十四圓三十五錢
 九萬四千二百三十六圓
 十萬八千三百七十一圓四十四錢

十二萬二千四百四十七圓四十六錢
 十四萬六千九百七十二圓九十五錢
 十七萬六千三百六十七圓五十四錢
 二十一萬一千六百四十一圓四錢
 二十五萬三千九百六十九圓十六錢
 三十萬四千七百六十三圓十一錢
 三十六萬五千七百七十五圓七十三錢
 四十三萬八千八百五十八圓八十八錢
 五十二萬六千六百三十圓六十六錢
 六十三萬九千九百五十六圓七十九錢
 七十五萬八千三百四十八圓十五錢
 九十一萬〇七十七圓七十八錢

發行所表

大正十二年一月廿七日印刷
 大正十二年一月三十日發行

定價金 六拾錢
 郵税金 六錢

東京市本郷區根津宮永町二十三番地
 永山吉次

東京市本郷區根津宮永町二十三番地
 時事經濟社

東京市京橋區新榮町三丁目一番地
 山本常吉

東京市京橋區新榮町三丁目一番地
 山本印刷所



291
 311

終

現物取引は江森商店に限る

確實、敏速、極便利に出来る

何人も取引を御試み下さい

東京市日本橋區南茅場町十一番地

公債株式現物問屋

江森商店

取引規定日報
暗號其他
必要書類申込
次第無代送呈

電話演町 三五三八・四六三六
振替口座東京 二九三七三番
發信略號「エ」又「エモリ」
受信略號トウケイカブエモリ